



Management Message

理事
三宅 正寿

まず初めに、元日に発生した令和6年能登半島地震につきまして、犠牲となられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

鉄道・運輸機構（JRTT）は、自然災害などにより被災した鉄道施設の早期復旧を支援するための「鉄道災害調査隊（RAIL-FORCE）」を令和5年4月に創設しました。令和6年能登半島地震の発生後、JRTTは国土交通省からの要請を受け、1月9日から鉄道災害調査隊（RAIL-FORCE）7名をのれと鉄道に派遣し、被災概況調査の把握を行いました。今後とも被災鉄道の復旧に向けて、できる限りの貢献に努めてまいります。

さて、間もなく3月には北陸新幹線（金沢・敦賀間）の開業を迎えます。これにより、東京・福井間が最速2時間51分（36分短縮）、大阪・金沢間が最速2時間9分（22分短縮）で結ばれることとなります。国や関係自治体、地元の皆様、建設のために尽力いただいた多くの関係者の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後の地域間の交流の促進や沿線地域の発展のお役に立つことを期待しております。

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）については、線路延長の約8割がトンネルであり、そのうち約7割が掘削済みとなっているほか、高架橋や橋りょうなど

の工事も本格化しています。関係者の皆様のご協力をいただきながら、着実に工事を進めてまいります。

現在、我が国の交通は、自然災害の激甚化、カーボンニュートラルへの対応、労働力不足の深刻化、施設の老朽化など、多くの課題に直面しています。JRTTは、これらの課題に対応し、鉄道や船舶など交通ネットワークの整備により、持続可能な社会への貢献に努めてきましたが、近年の社会の大きな変化に対応し、DX・GXの推進といった課題に対しても、運輸施設の整備に関する技術力とノウハウを活用しつつ、新しい取り組みに積極的に挑戦しなければなりません。

JRTTは、今年度から「第5期環境行動計画」や「建設DXビジョン」により、環境負荷の低減に係る取り組みや、デジタル技術を活用した業務の質の向上を計画的に推進しています。また、地域公共交通の活性化や物流の効率化の支援のため、交通・物流分野のDX・GXに対する出融資業務を拡充しています。さらに、サステナビリティファイナンスによる資金調達を活用しながら、温室効果ガス排出量の少ない鉄道や船舶の整備を推進しています。

今後とも、JRTTは、安全で安心な、環境にやさしい、明日を担う交通ネットワークづくりに貢献してまいります。引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。